

鉢柄山

2011年6月19日 リーダー:伊藤松雄



鉢柄山山頂にて▲

鉢柄山(くわがらやま)山行紀

6月19日鉢柄山行き車内での会員概況報告は、5月山行（飯盛山）が余りにも好天に恵まれ、南アルプスや八ヶ岳の眺望が素晴らしく、感激の山行だったと参加した会員の多くが発言した。それに対し、今日（19日）は天気が芳（かんば）しくなく、期待外れの感がすると語る人がいる。天気についてはリーダー（私）の責任ではないといい聞かせながらも、ツツジさえ咲いていれば、霧の中にうかぶ橙色（だいだいいろ）のツツジは幻想的に見え、きっと感激するだろうから「ツツジよ、咲いていてくれー」と心のなかで手を合わせていた。

バスは赤城山山麓にさしかかり、イロハ坂状の道を登っていく、そろそろツツジが咲いているところだ、と車窓に目をはりつけたが橙色は見つからない。「あっツツジだ!」と見つけたツツジは…枯れていた。遊友と同じでもう終わりか…とあきらめかけていた。あきらめていた自分のまなこに、ダイダイ色がバット広がった。「ツツジだ!」「ヤッター!!」と思わずガツッポーズした。しかも7分～8分咲きではなく満開なのだ。「やっぱりリーダーがいいとこうなるんじや」と気分はルンルンになった。心は爽快、「満開!満開!満開!」するとなんだい「私が来たから満開よ」と後ろの席から聞こえてきた。さっきまで「今日はちょっと期待外れね」なんて、ほざいていたくせに。でもいいか、素晴らしい景色を見られるから、許しちゃ

う。しかも遊友は枯れるどころか赤いチャンチャンコを着て色香（いろか）をかもしだしている（それはお世辞…）

イロハ坂状の登りを終えたバスの車窓に、これでもか!と真赤か（まっかっか）のツツジが山の斜面いっぱいに、目にとびこんできた。この山の名前は何ていうの?「赤着山(あかぎやま)じゃあ!」納得。ホルスタインのビーフステーキ（牛）がいる白樺牧場を横目にツツジの中を歩く。歩く土は真赤なツツジの絨毯（じゅう ↑

2011年6月19日 伊藤 松雄

たん）と生える白樺の木、目ざす鉢柄山は新緑と頂上部はツツジの赤。ロケーションは群発地震（いや抜群でした。）展望のきかなくなったり樹林帯の中を進むと、樹木にあわい霧がたちこめていた。周りを見ると遊友の女性はなんと「霧のなかの老女（いや少女です!）」になっている。最近パソコンばかりやっていて目の視力がおちているから、老女と見えたのだろうか、と考えながら進むと白樺牧場を見わたす展望台に。

眼下は緑色のキャンバスに赤と橙色のツツジが燃えるように点在し、自然と人間が織りなすアートが広がりをもって展開していく、おもわず見惚れてしまった…ウットリ

着いた頂上からは、霧と深緑が織りなす赤城山の山々に抱かれた懐（ふところ）に、濃厚な緑色した湖が見える、大沼である。「赤城の神様にお願いした女性の願いごとは必ずかなえられ、美人になる」という、そんな赤城娘の伝説が伝わる湖である。

次ページへ続く



霧に呑ぶ遊友の友▶

前ページから続き

「いまさら…」と思っても女の情念は根深い。我が遊友の女性も心のどこかで願ったに違いない。「美人にしてください…」しかし願いを叶えてくれるのは神様である。遊友の娘を見た神様は「もう手遅れじゃ、（手遅れではなくこれ以上美人になる必要はない、に訂正します）美人になる変わりに、覚満姫の妖艶を見せてやろう」と思ったかは別にして、赤城の神様は粹なはからいを行なってくれたのである。

小尾瀬と呼ばれる覚満淵、そこには小さな沼に浮島が点在し、木道が整備されていて素敵なところ。霧に隠された覚満淵の白い闇のなかを進むと、スープと闇は消え、白い1本の木がうっすらと現われた。「でたー! 覚満姫じゃあ」、妖艶（ようえん）ちがう幻想だ、幻想ではない現実だ、赤い山の姫、白き美しい覚満姫があらわれたのである。きれい、綺麗だ、う・つ・く・しい!

6月山行感想文

本日は伊藤会長のご案内で赤城山の白樺牧場と鍬柄山へ「レンゲツツジの花見会」です。天気はみんなが期待?していましたネ。赤城に近づくにつれて次第に明るくなってきました。赤城の白樺牧場に到着するとそこは、一帯にツツジの花が咲いていてみなが歓声を上げました。

浜ちゃんは残念ですがこの公園周辺見物で花見のようです。登山口へ向かう途中からレンゲツツジがいっぱいです。徐々にのぼり見晴台で振り返ると白樺牧場がツツジで美しかった。今回は小倉写真家が欠席なので花々を撮らないと…これが確かクサタチバナ、これはウツギかと撮っていたら戸邊さんが「赤城の山の

花々」の写真で名前を見くらべながら、手伝ってくれました…これはズミの花、こっちがオダモでここに黄色の花がなどと数枚は撮りました。そうこうしているうちに鍬柄頂上へ到着、お弁当おにぎり食べて一休み、山頂からは大沼（オノ）の向こうに黒檜山、と右に駒ヶ岳、が見えた、登ってきた方向には地蔵岳がガスの中かと…ちょっと見えた、下山コースに戻り合流し全員で、小沼（コノ）に行き、写真を撮ってから覚満淵へのぶらりハイクは、ガスが出ていたので幻想的で良かった。再びバスで温泉につかり恒例のビールを飲みバスへ、帰りの車内は伊藤さんと鴨原さんの掛け合い話で鴨原さんにはみなが楽しく大笑いさせていただきました。伊藤会長の楽しいご案内とともに天気にもなってありがとうございました。《藤井義》

赤城山・鍬柄山に花を求めて

晩まで降っていた雨も止み、晴れますようにと祈りつつ朝6時にバスに乗り込みました。今日の山行は赤城山・鍬柄山です。今回の私の主たる目的は、歩く事よりも花を観賞する事があります。レンゲツツジ、ヤマツツジ、ミツバツツジがその主役です。バスが白樺牧場に着くと辺り一面にレンゲツツジが咲き誇っておりました。ツツジは牧場の中に咲いており、牛、観光客、素人カメラマン等で賑やかでした。牧場に沿って登山口へと歩き出すと足元にはキンポウゲ、キバナハタザオが黄色い花を咲かせておりました。事前に調べておいた写真メモを片手に鍬柄山に向かって登り始めると目に入る花はツツジばかり。ほとんどがレンゲツツジとヤマツツジです。しばらく歩くとミツバウツギ、オダモ、ズミの白い花も見かけるようになりました。小さな釣鐘

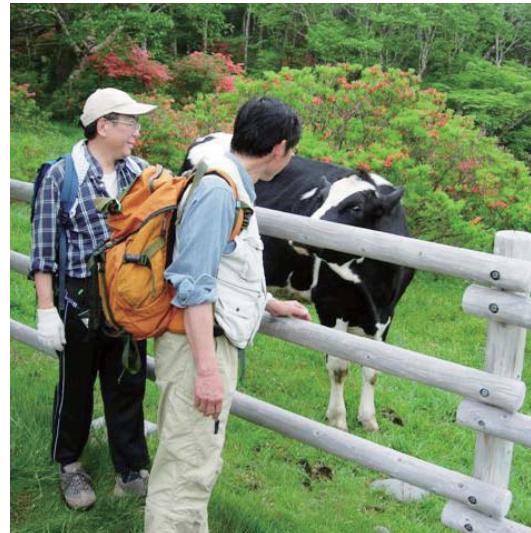
妻に内緒で覚満姫と逢瀬をかさねたい、（今、パソコンにむかっている日は、7月7日、七夕です）。「ばかもーん!お前みたいなドスケベは2度と赤城にくるな」（神様スマセン、でも、秩父の神様だって12月3日逢瀬をしていますよ）

「神はいいのじゃ、見えないから」（だから、隠れて…）

それにしてもこんな神秘的な光景を見られるのはめったにない。遊友の女性の情念が「山を艶」（やまをつや）にしたのである。山はいつも同じに見えて、山はいつも同じ表情ではなく、訪れたその時々の季節感をもってむかえてくれる。覚満姫に魅了された新入会員や、つい最近入会された男性会員は、神秘さに魅了され、帰りの車中では狂って、しゃべり放題、私にはマイクを渡してはくれなかった。

赤城山 真白き姫に 狂わされ

お粗松



牛と豊島さんと饗庭さん▲

を垂らしたようなサラサドウダンも咲いておりました。鍬柄山の山頂近くに来てようやくミツバツツジをみつけました。薄紫色の花でやや大きめな木に咲いておりました。

また、山頂近くの斜面にクサタチバナが群生して真っ白な花を沢山咲かせておりました。鍬柄山の頂上でお昼を食べ、来た道で見つけて花を再確認しながら同じ道を下って下山しました。再びバスに乗り今度は小沼へ向かいました。小沼の湖畔をハイキングです。これまで晴れていたのがこちらでは靄がかかるで遠くの山々は全く見えませんでした。湖畔ではズミの花が丁度満開でした。ハルゼミもたくさん鳴いておりました。その後は途中で温泉に入り、ビールを飲んで、バスの中でまたお酒をのんでといつのパターンです。今回は帰りのバスの中が大盛り上がりました。主役はS原さんで最高に楽しいひとときでした。更にせんげん台下車組は、全員でビールを飲みながら反省会を行って本日の山行を終えました。今回も100%満足でした。リーダーの伊藤さんを初め皆様ありがとうございました。

種残る 枝に咲きたる ツツジかな
花びらの 色から枯れる ヤマツツジ
牧場に ひとりわ大き キンポウゲ
靄かかる 山の小沼に 鴨一つ
満開の ズミの幹にて 蟬鳴けり

《戸邊茂雄》



赤城白樺牧場▲

小沼にて▼

